

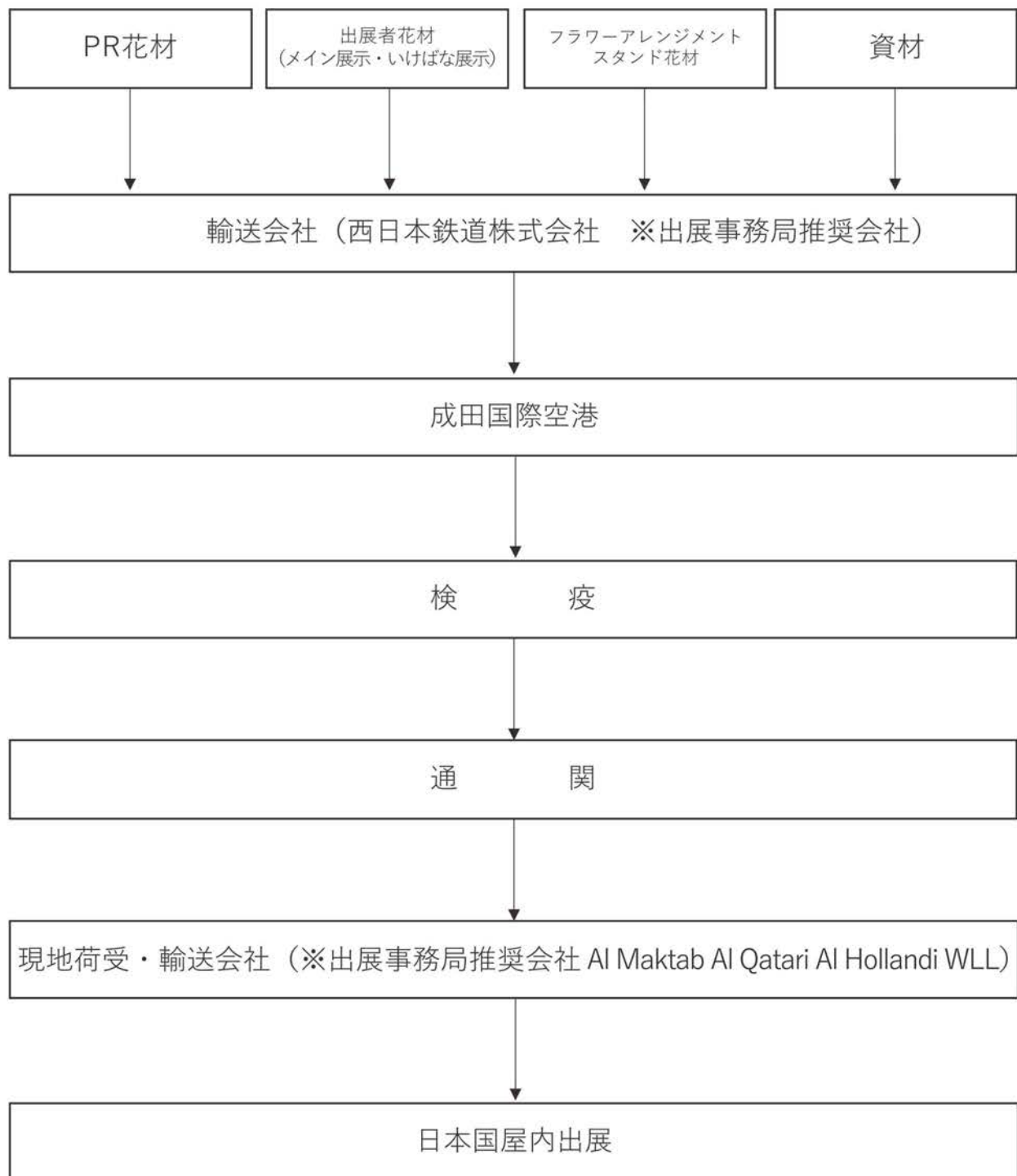
6. 屋内出展輸送業務

6-1. 輸送について

花材と資材の輸送フローは、以下の通りである。

空輸においては日本とカタール間で直行便が運航されていたカタール航空を利用した。

船便においてはアジア・中東の数か所の都市を経由してドーハの港に到着する便を利用した。



6-2. 出品者の花材の輸送

PR花材の出品者に対し、ドーハまでの基本ルート、スケジュール、提出書類の記載方法について案内するとともに、植物の消毒、航空機輸送にあたっての梱包等の注意をまとめた「出荷手順マニュアル(切花用、鉢物用)」を作成・送付した。植物検疫に関する事項だけでなく、ワシントン条約(CITES)等についても出品する植物種に応じて情報提供を行った。

PR花材の出品は、宅配便にて成田空港近隣の輸送会社へ直送するルートを基本とした。花材の性質等諸事情により宅配便での直送が不可能な場合は、東京都内の花き卸売市場((株)大田花き、(株)フラワーオークションジャパン)の協力を得て市場集荷ルートを用いた上で、成田空港に輸送した。

博覧会開催地の気候的な条件から、現地到着後の保冷管理・輸送が非常に重要であり、鮮度を保持した状態で博覧会会場まで届けられる方法を調整した。



品種情報を記載したタグ



輸送用シールを添付したカーターの荷姿

6-3. 出展者の花材の輸送

メイン展示スタンド(一般出展)やいけばな展示スタンド等の出展者に対し、輸送についての標準的なタイムスケジュール、輸送ルート、植物の消毒・梱包、ステッカーの記入・貼付、出荷明細書の記入事項等についてまとめた「輸送マニュアル」を作成し配布を行った。また輸出に必要な植物検疫やワシントン条約(CITES)等についてのアドバイスを行った。

6-4. 植物検疫

空輸した植物・資材検疫はハマド国際空港にて実施され、12時間程度で終了し通関手続きとなった。

6-5. 通関

今回の2023年ドーハ国際園芸博覧会の会場は、保税エリアとなっていなかったため、PR花材・展示用花材・資材の通関は一般輸入の手続きを行う必要があった。

6-6. カタール国内輸送

PR花材・展示用花材・資材は検疫・通関後、現地荷受・輸送会社より日本国屋内出展へ配送された。

6-7. 荷受け

開園前の7時00分～8時00分に車両による搬入が行われた。政府出展(花材・資材)・PR花材の荷物およびメイン展示スタンド(一般出展)の出展者が荷物検品に立ち会いができない場合は事務局スタッフ・花き専門スタッフが行った。

花材は荷受け後に記録写真の撮影を行った後に水揚げ作業を行い保冷コンテナに保管した。資材は使用するタイミングを考慮しコンテナ、およびバイオドーム2内の空きスペースを利用して保管した。



車での花材搬入の様子



スタッフによる水揚げ作業



花材到着時の様子



スタッフによる水揚げ作業



梱包開封時の花材の様子



スタッフによる資材の開封作業

6-8. 花材・資材の廃棄処分

花材・資材の廃棄は、博覧会の分別ルールに則って行い、博覧会会場内に指定された廃棄物処理場に持参した。



スタッフによる花材の開封作業



博覧会協会指定の廃棄物処理場

7. 日本国屋内出展及びバックヤード

7-1. 日本国屋内出展概要

バイオドーム2(約800㎡)内に展示スペースと事務所・商談スペースなどを備えた約200㎡の区画を確保し、フレキシブルに対応できる展示構成と、木や漆喰、無垢のデザインパネルなど異なる素材を活かしたモダンな空間のなか、日本の優れた花き、花き文化等を紹介するとともに、本園芸博覧会の開催テーマ、サブテーマに関連する我が国の技術等を展示した。

共同館(バイオドーム2内)の出展であったため館内空調を切花展示のため、約20℃程度の温度で希望したが、日中は建物の構造上の関係で直射日光等により35℃程度になる反面、日没後は18℃程度など温度差が激しく花き展示には適していなかった。

なお、数回にわたりバイオドーム2建設会社側と交渉を実施したが、ドーム内温度の改善はされなかった。



7-2. 屋内出展施工スケジュール

2023年10月2日(月)に開幕した EXPO 2023 Doha ではあったが、会場全体で工期が遅れていた。日本国屋内出展の出展エリアであるバイオドーム2においても建設工事が遅れたため日本国屋内出展は2023年10月24日(火)からのオープンとなった。

年	2022年(令和4年)				2023年(令和5年)									
月日	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	業務着手							国内施工調達着手				海上輸送着手		現地施工整備着工 24日竣工
設計期間	基本設計			実施設計										2日開幕
準備期間				現地調査								現地調査	現地調査	
造作物製作期間								国内製作						
グラフィック製作期間								国内製作					現地製作	
備品調達期間										国内資材手配			現地資材手配	
電気関連調達期間										国内資材手配				
植栽関連調達期間										国内資材手配		現地植栽手配		
海上輸送期間											国内手続き	名古屋港～シンガポール経由 ～ハマド港	現地手続き	
現地施工整備期間														6日着工 23日完成
バイオドーム2 整備期間(展示館)										展示館着工	基礎工事	本体整備	館内施設整備	5日完成引き渡し

7-3. コンテナ

花き展示スタンド、フラワーアレンジメントスタンド、メイン展示スタンドなどに展示する切花を保管するための保冷コンテナを1基(12.3㎡)、各種備品を保管するための資材コンテナ1基(13.8㎡)をそれぞれ屋外展示エリア内のバックヤードに設置した。夜間はコンテナを施錠し盗難防止対策を行った。



資材コンテナ(左)と保冷コンテナ(右)



保冷コンテナ内部



資材コンテナ内部

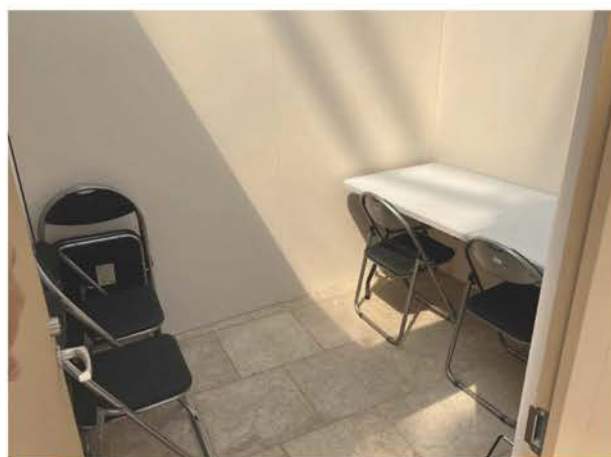
7-4. 事務所

日本国屋内出展区画内に現地事務局用として約16.9㎡のオフィススペースを設けた。常時約4名の事務局スタッフが作業をするため、事務机、ロッカー、荷物棚、ハンガーラック、冷蔵庫などを設置した。また、バイオドーム2内の事務所エリアの横の空きスペースを活用し花き専門スタッフや出展者が作業を行える作業エリアとして利用した。作業エリアには、給排水などの設備が存在していなかったため、バケツに一定量水を汲んでの作業となった。



7-5. 出展者控室

主にメイン展示出展者が休憩等に利用する目的として約5㎡のスペースを設けた



8. 屋内展示施工

フレキシブルに対応できる展示構成と、木や漆喰、無垢のデザインパネルなど異なる素材を活かしたモダンな空間のなか、日本の優れた花き、花き文化等を効果的に紹介できる演出とした。

8-1. 施工スケジュール

- 2022年9月～12月 基本設計
- 2023年1月～3月 実施設計・国内資材調達・国内工場制作
- 2023年8月～9月 海上輸送・現地資材調達
- 2023年10月 現地施工・検査・引渡

8-2. メイン展示、多目的・いけばな展示等

メイン展示スタンド(19㎡)

会期中、約1～2週間ごとに、政府展示、花き関係団体、地方自治体等の出展者が様々なシーンに対応するため、可動式ステージにした展示スタンドで花きの装飾展示を中心に作品を展示した。



多目的展示スタンド(5.5㎡)

各種展示の用途にあわせ、フレキシブルに対応できるスペースを設けた。

具体的な活用内容としては、メイン展示スタンドの出展者からの希望を優先し、メイン展示の補完的役割として活用した。それ以外としては、PR花材の展示や花き専門スタッフの作品を展示するスペースとしても活用した。



いけばな展示スタンド(6.5㎡)

日本の代表的ないけばな2団体「一般財団法人池坊華道会」・「一般財団法人草月会」による季節に伴った展示を通して、日本の伝統文化であるいけばなの魅力を全期間を通して紹介した。



フラワーアレンジメントスタンド(7㎡)

花き専門スタッフにより、日本のフラワーアレンジメントを紹介した。



コンテスト・輸出PR花材展示スタンド(5㎡)

日本から輸送されたPR花材を中心に展示し、来場者による人気投票も実施した。



物販コーナー(約1.5㎡)

2024年1月の1ヶ月間は日本の商品・食品加工品等を販売し、販売期間以外は花き専門スタッフによる作品を展示するスペースとしても活用した。



8-3. 情報発信展示、商談コーナー等

情報発信展示(震災支援の感謝5㎡)

震災支援の感謝のコーナーでは、映像及びパネルにてカタル国への支援に対する感謝を伝えるべく被災地からのメッセージや復興の状況を紹介した。

その他2027年国際園芸博覧会・横浜市のPR動画も放映した。



インフォメーション(2㎡)

日本国屋内出展の窓口として、インフォメーションカウンターを設置した。

花き専門スタッフを中心に、来場者の出迎えや案内業務を行った。



情報発信展示(農業技術5㎡)

農業技術のコーナーでは、日本の先進的な技術を実物展示及び映像、パネルなどで紹介した。



商談コーナー(6㎡)

来場者との商談や他の参加国との情報交換の場として利用した。



